

## 2019年度学校関係者評価報告

1. 日 時 2019年6月25日(火) 14時～16時
2. 場 所 愛仁会看護助産専門学校 2階 会議室
3. 出席者

評価委員：4名

- (学校運営専門家) 八田武志 (関西福祉科学大学 学長)
- (業界関係者) 松原正明 (愛仁会本部 常務理事兼局長)
- (業界関係者) 井上裕美子 (愛仁会本部 看護担当特任理事)
- (卒業生) 西原伸美 (井上病院 看護部長)

学校出席者：6名

- 清水富男 愛仁会看護助産専門学校 学校長
- 台野悦子 愛仁会看護助産専門学校 副学校長
- 真島久美子 愛仁会看護助産専門学校 看護学科教育主事
- 岡村稔子 愛仁会看護助産専門学校 看護学科教育主事
- 増本綾子 愛仁会看護助産専門学校 助産学科教育主事
- 松田孝緒 愛仁会看護助産専門学校 事務部長

#### 4. 会議の概要

- (1) 昨年度の評価結果コメントに対して
- (2) 昨年度との相違点説明
- (2) 事前評価資料からの質疑応答及び書類審査
- (3) 評価者協議
- (4) 講評

評価項目については、自己点検・自己評価報告書の基準に基づき以下のとおり実施した。

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| I 教育理念・目的・育成人材像 | VI 教育環境       |
| II 学校運営         | VII 学生の募集と受入れ |
| III 教育活動        | VIII 財務       |
| IV 学修成果         | IX 法令順守       |
| V 学生支援          | X 社会貢献・地域貢献   |

#### 5. 評価結果

評価項目 全項目について「可」の評価

#### 6. 今後の取り組み

各評価委員から貴重なご意見を頂き、今後も、学校関係者評価の結果を踏まえ、学校関係者と連携・協力し、教育水準の向上、学校運営の改善、強化に取り組んで参ります。

以上

平成 30 年度 評価

	自己評価	学校関係者評価
I 教育理念・目標	2.8 理念等は文書化し周知に努め、育成人材像も現状とプロセスに記したとおり病院等の人材ニーズに適合したものであると評価する	可 理念の重要性等の認識を卒業時にも確認する等の工夫がほしい。
	2.8 運営方針は、教育理念、教育目的を踏まえて、事業計画の中で文書化され明確となっており、職員会議で全職員へ周知されている。	可 第三者評価の導入・公表に取り組み、「職業実践専門課程」の認定を受けるべく取り組み、平成 31 年 3 月に取得している。これをしっかり広めていくこと。
III 教育活動	2.7 教育理念から教育目的・教育目標・期待される卒業生像を「STUDY COMPASS」「STUDY GUIDE」に明文化することで、教職員および学生にも理解でき、一貫した教育が実践できていると考える。	可 コミュニケーション能力や状況判断能力の強化に向けて、PBL や OSCE などの教育方法も取り入れ、学習指導の充実を図っている。 学生による授業評価は、教育内容の見直しに役立てられる。資格を備えた教員を定員以上に確保し、質の良い教育を実践できるように努力している。
	2.6 教育理念・教育目的から看護師、助産師として 100%の就職率を目標として掲げている。また愛仁会グループ病院と協力し就職セミナー等を実施することで、愛仁会グループ病院への就職率の向上を図ることができている。	可 学生の就職率は、毎年ほぼ 100%である。国家試験の合格率は、全国の合格率を上回っている。卒業生が、医療や福祉等の分野で活躍することは、学校の社会的評価に繋がっている。
V 学生支援	2.6 多くの学生が社会医療法人愛仁会貸与奨学金制度を利用し、社会医療法人愛仁会への就職を希望している中で、自らの適性を踏まえた進路選択ができるように就職セミナーや個別面接など行っていることは評価できる。	可 自らの適性を踏まえた進路選択ができるように就職セミナーや個別面接なども行っている。 奨学金のあり方に関しては、全学生に必要なかどうかについて今後検討が必要である。
	2.8 施設設備、教材教具は法令基準に適合し、かつ、教育目的の達成を目指し、知識・技術の両面から実践力を育てる環境として充実している。	可 施設・設備等や学外実習等は適切であるが、学生目線での利便性を考慮した環境が望ましい。
VII 学生の募集と受入れ	2.9 学生募集について広く広報に努め、内容に関しても入学希望者だけでなく、その保護者や高等学校教職員まで丁寧な説明を心掛けている。また募集活動の時期や試験方法の種類なども、それぞれの入学希望者の状況に併せて設定するなど、工夫を行い適切に対応している。	可 学生募集活動として、倍率は何倍を目指しているのか。実習施設の売りをもっと積極的にアピールし、看護大学とは違う良さを伝えられるよう、教員も各施設の特徴が理解できるよう研修なども必要ではないか。入学選考に関しては、中途退学者の退学理由と合わせて検討していく必要がある。
	2.7 財務基盤に関しては、社会医療法人愛仁会の強固な財務基盤により、学校単独の収支状況の影響なく運営が行える状況にある	可 監査法人による監査を受け、適切に処理がなされている。常日頃から 1 学生養成に係る費用を意識しながら活動を願いたい。
IX 法令等の遵守	2.9 職業専門実践課程認定の取得ができ、社会に看護専門学校として質保証を示せたと考えている。	可 法令遵守、個人情報保護、第三者評価受審、教育情報公開について、現状を継続していただきたい。学校関係者評価を実施し、教育活動、学校運営等に係る課題を共有し、教育活動や学校運営に業界関係者等学校外部の意見を反映させている。
	2.2 障害者施設や介護老人保健施設などが主催するイベントへのボランティア参加を奨励している。	可 学生が安心してボランティアに臨めるよう、ボランティア保険などの考慮が必要である。
評価基準	3：適切 2：ほぼ適切 1：やや不適切 0：不適切	可：基準を満たしている 否：基準を満たしていない